

【ひなまつり】

3月3日のひなまつりは、ひな人形を飾り、白酒や菱餅を供えて、女の子の無事な成長を願う行事です。

紙や土で作った人形に息を吹きかけたり肌身を押し付けたりして災厄を移して、船に乗せて川や海に流していたのが始まりです。

また、旧暦の3月3日(現在の4月上旬)は桃の花が咲く頃であったため、「桃の節句」とも呼ばれています。

ここでは、紙コップを使った立体的な手作りひな人形の作り方を紹介します。



つくってみよう！

【準備】

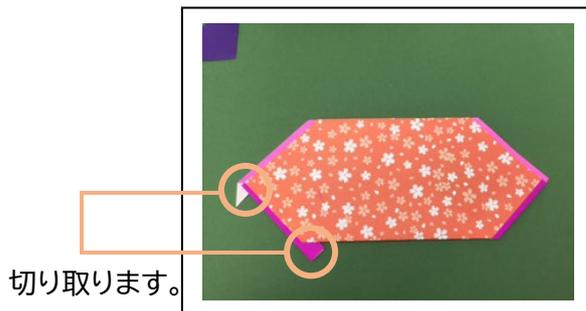
- ・材料・・・紙コップ、白画用紙、折り紙(髪の毛→黒、着物→好きな色 or 千代紙)、つまようじ
目とほほ用の丸シール(黒と赤のペンでも代用できます)
- ・道具・・・はさみ、のり、赤サインペン、鉛筆、定規、セロハンテープ

【作り方】

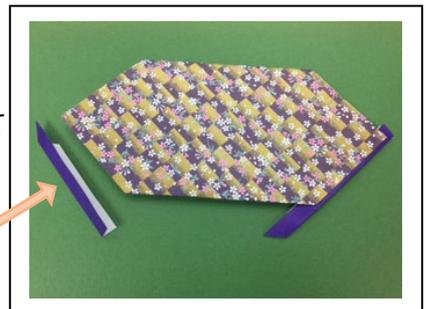
- (1) 白画用紙に紙コップの飲み口を下に置き、円を鉛筆で描き取り顔の下地を作る。
- (2) 黒い折り紙の裏に同じく紙コップを置いて、円を鉛筆で描いてから、髪の毛の形を作る。お内裏様は、円の半分より上あたりで横に線を引き、お雛様は、紙コップのふちを利用して半分の弧を描いて切り取り髪形を作る。三人官女や五人囃子は少し髪型を変える。
- (3) 下地に髪型を貼り付け、目とほほの丸シールを貼り、口を赤サインペンで描く。(シールが無い場合は目とほほの部分ペンで描く。)そして、顔の裏にセロハンテープでつまようじを固定する。
- (4) 折り紙を三角に2回折り、4等分のうちの1枚を紙コップの半分より少し上の分から貼り、余った部分を紙コップの内側に折り返す。



- (5) 羽織る着物の折り紙を選び、裏側に約1/4ずつ両側に折る。三人官女や五人囃子は、着物の柄を変える。
- (6) 余っている折り紙を細かく切り、それを半分に折って糊付けをし、襟元の着物が重なっているように貼り付け、余分なところは、はさみで切り落とす。



半分に折って
糊付けして
重ねます。



※お雛様の小袖の部分や襟元も折り紙を重ねることで重厚感が増します。

- (7) 出来上がった着物を紙コップに巻いて、のりで貼り付ける。
- (8) 顔をつけて、冠や扇子や杓しゃくなどの装飾をしたらできあがり！



関東では向かって左が男雛、右が女雛ですが、関西では逆です。

三人官女…左から提子ひさげ、三方さんぼう、
長柄鉾子ながえのちようしを持っています。

五人囃子…関東では能の囃子方、
関西では雅楽の囃子方を模しています。左から太鼓たいこ、大鼓おおつづみ、小鼓こつづみ、
笛ふえ、謡うたいです。